
 書 評 ・ 紹 介

Jacob S. Siegel and David A. Swanson (eds.)

The Methods and Materials of Demography (Second edition)

Elsevier Academic Press, 2004, 831pp.

有名な「都市伝説」で、チョコレートのM&M'sには、緑色に媚薬作用があるという噂がアメリカで広く流布しているのをご存知だろうか。根も葉もない噂だが、一説には、1970年代からすでに30年ほど語り継がれていると言われている。

人口学のM&Mと言えば、間違いなく、赤い表紙の有名なテキスト Shryock & Siegel の The Methods and Materials of Demography のことであった。この本は、Shryock と Siegel を中心としてアメリカセンサス局職員により執筆され、1971年に2分冊で出版された。さらに76年に Stockwell を編者に加えて縮約版が出版され、以降30年にわたって人口学の教科書・レファレンスとして不動の地位を保ってきた。はじめに出版された2分冊のときには25章888頁と4つの付録からなり、縮約版でも24章559頁3付録という大著であった。私事ではあるが、評者がアメリカに留学中の90年代半ばでも、掲載事例は古くなり、また、様々な方法論の展開が起きていたにもかかわらず、M&M以上に包括的な人口学のテキストは他にないとして、主要教科書のひとつに指定されていた。人口学の進展の緩慢さを映しだしているともとれなくはないが、むしろ、M&Mの提供する内容が重要な基本事項を網羅し、読者のニーズによく合致していたためであろう。

この古典的名著が、ついに全面改訂されたのが本書である。30年前の本をスキャンして電子化したものを元に、表などの各種データを新しいものに書き換え、新たに開発された手法などを盛り込んでいる。章立てとしては、新版では22章へと減らされることとなった。つまり、縮約版の7. Sex composition と8. Age composition の章、10. Marital characteristics and family groups と19. Marriage and divorce の章、11. Educational characteristics と12. Economic characteristics の章がそれぞれ合併して6章が3つの章になり、その他の21章は縮約版を引き継いだ。

ただし、一つだけまったく新しく付け加えられた章があり、特筆に価する。Health demography の章である。死亡に影響を及ぼす要因である保健（健康）そのものに関する人口学的研究が進んできて、認識が高まったためと言えよう。また、30年前の人口学では、生死それ自体が最重要課題であったが、近年では人口の数量の問題だけではなく、リプロダクティブヘルスに代表されるように、人口の質の問題に関心が移ってきたこととも関係がある。つまり、健康という質的な課題を人口学的に把握する試みが活発になってきている。出生とその要因の研究だけでなく、婚姻や離家研究が日本で人口学の一環として進んでいる。同様に、超高齢化が進行し介護問題が深刻になる日本で、Health demography はこれからいっそうの進展が望まれる領域であろう。

30年読み継がれたM&Mの第2版は、装いも新たに、あざやかな青色の表紙をまとっている。この青い表紙のM&Mは、人口学の幅広さと奥深さへと読者をいざなう作用を発揮するに違いない。縮約版以上に、世界中で教科書に、研究者の参照用にと活用され続け、人口学における伝説を更新していくだろう。

(小松隆一)